

# 平成23年度概算要求における 科学・技術関係施策の 優先度判定について (概要)

平成22年10月22日  
科学技術政策担当大臣  
総合科学技術会議有識者議員

# 平成23年度概算要求における科学・技術関係施策の優先度判定について

## 1. 優先度判定とは

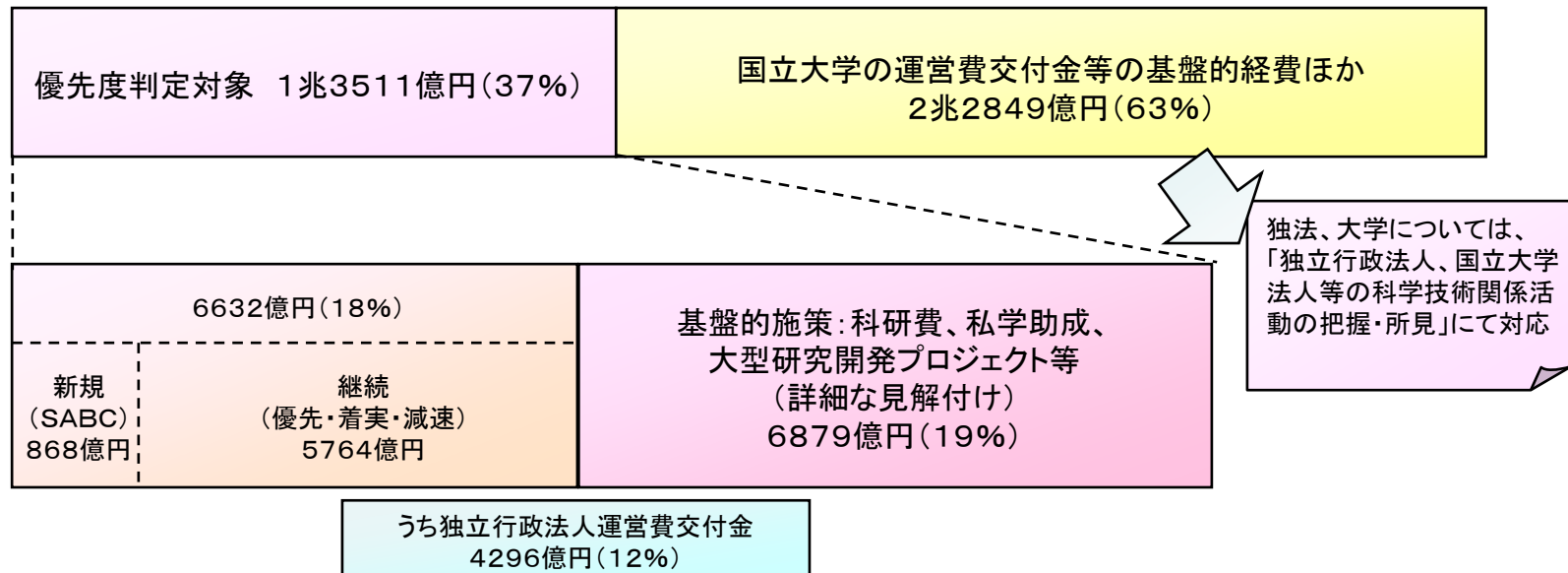
- 予算編成プロセスの一部として、総合科学技術会議が策定する資源配分方針に基づき実施。

## 2. 平成23年度優先度判定の特色

- 平成23年度は、総合科学技術会議が各府省と協力して「科学・技術重要政策アクション・プラン」を策定し、概算要求前から政策誘導を徹底。
- 第一線の若手研究者の参画を得て、より客観的に優先度判定を実施。
- 優先度判定において、アクション・プラン構成施策の評価は顕著に高く、科学・技術関係予算要求内容の質の向上が図られた。  
→ 優先度判定が政府予算案に適切に反映されるようにすることが重要。

## 3. 優先度判定結果

(全体像) **平成23年度科学・技術関係予算概算要求額：3兆6360億円**



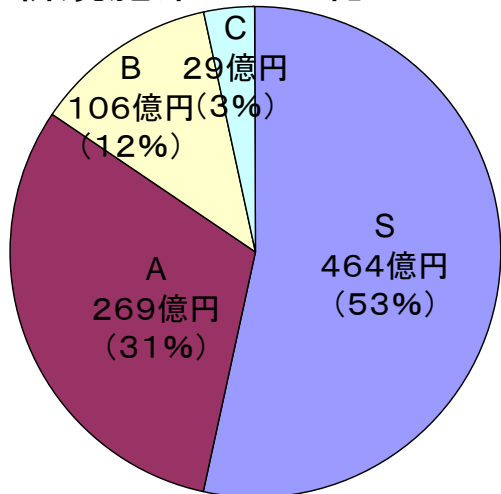
# 優先度判定結果(金額ベース)

## 優先度判定結果総括表

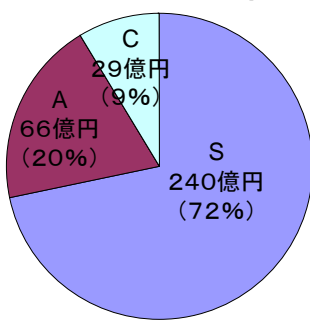
要求・要望額(億円)	新規				継続			合計
	S	A	B	C	優先	着実	減速	
グリーン・イノベーション(AP施策)	210	1	0	0	518	136	0	865
ライフ・イノベーション(AP施策)	30	65	0	29	110	17	0	252
AP合計	240	66	0	29	628	153	0	1,117
グリーン・イノベーション(AP以外)	19	136	35	0	202	643	0	1,034
ライフ・イノベーション(AP以外)	18	4	40	0	162	691	110	1,026
基礎研究	0	0	0	0	144	217	0	361
人財強化	78	15	20	0	482	47	0	642
豊かな国民生活基盤	1	1	0	0	37	113	0	152
産業基盤	3	3	1	0	27	174	0	208
国家基盤	52	1	0	0	136	404	0	592
共通基盤	53	23	10	0	13	486	0	586
イノベーション創出	0	20	0	0	126	769	0	915
合計	464	269	106	29	1,957	3,697	110	6,632
					詳細な見解付け			6,879
					総計			13,511

## 各評価の割合(全体とアクション・プラン(AP)部分)

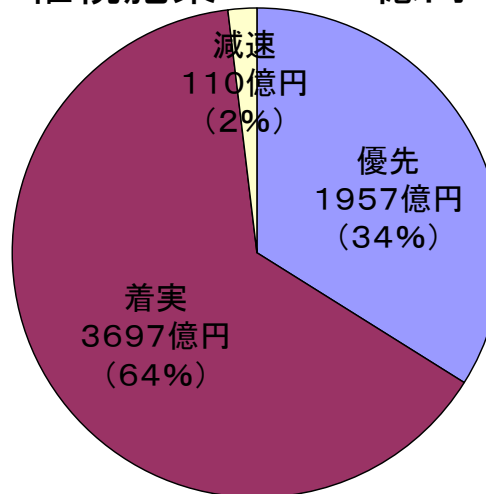
新規施策: 868億円



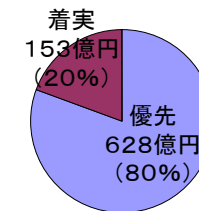
うちAP: 335億円



継続施策: 5764億円



うちAP: 781億円



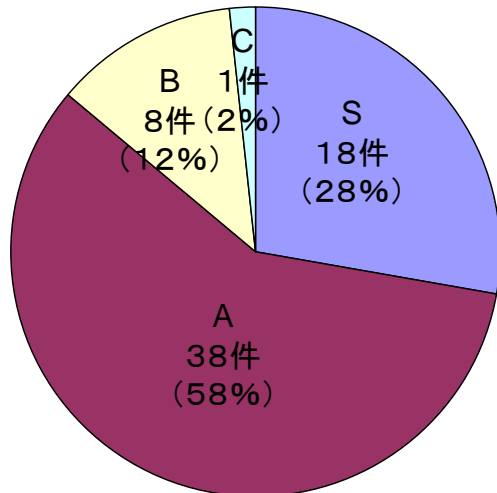
# 優先度判定結果(件数ベース)

## 優先度判定結果総括表

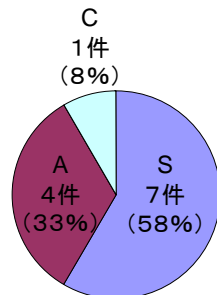
件数(件)	新規				継続			合計
	S	A	B	C	優先	着実	減速	
グリーン・イノベーション(AP施策)	6	1	0	0	33	15	0	55
ライフ・イノベーション(AP施策)	1	3	0	1	11	2	0	18
<b>AP合計</b>	<b>7</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>44</b>	<b>17</b>	<b>0</b>	<b>73</b>
グリーン・イノベーション(AP以外)	1	15	2	0	6	43	0	67
ライフ・イノベーション(AP以外)	1	2	3	0	8	27	1	42
基礎研究	0	0	0	0	3	2	0	5
人財強化	2	4	1	0	5	4	0	16
豊かな国民生活基盤	1	4	0	0	2	4	0	11
産業基盤	1	1	1	0	3	4	0	10
国家基盤	3	1	0	0	4	10	0	18
共通基盤	1	5	1	0	1	16	0	24
イノベーション創出	1	2	0	0	26	23	0	52
<b>合計</b>	<b>18</b>	<b>38</b>	<b>8</b>	<b>1</b>	<b>102</b>	<b>150</b>	<b>1</b>	<b>318</b>
					詳細な見解付け			19
					総計			337

## 各評価の割合(全体とAP部分)

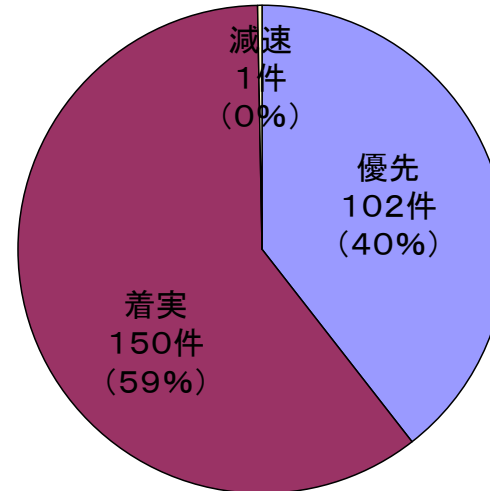
新規施策: 65件



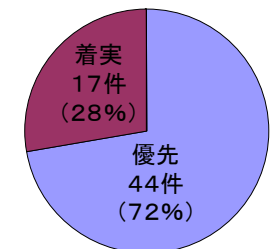
うちAP: 12件



継続施策: 253件



うちAP: 61件



# 參考資料

# 優先度判定の内容について

## 1. 新規施策について

施策の重要性、実施方法の最適性、資源投入規模の妥当性をもとに、以下のように S, A, B, Cの4段階にて判定している。

S: 重点化対象課題に該当する施策のうち、目標設定が明確で効果的な実施体制が整備されるなど内容的にも極めて優れ、特に重点的に資源を配分することで、積極的に実施すべきもの。

A: 重要で、内容的にも優れた施策であり、重点的に資源を配分することで、着実に実施すべきもの。

B: 必要な施策であり、限られた資源を有効に活用して、効果的・効率的に実施すべきもの。

C: 必要な施策ではあるが、目標設定、ロードマップ、実施方法等の一部が不適切なもの、或いは、資源投入の優先度が低く、実施すべきではないもの

## 2. 継続施策について

継続施策は過年度に実施計画全体の評価を行っていることから、「着実又は効率的に実施すべき施策」を基本としている。研究開発の動向、社会ニーズの変化等を勘案して、「優先施策」、「着実・効率的に実施すべき施策」、「減速すべき施策」を峻別している。

## 3. 詳細な見解付けについて

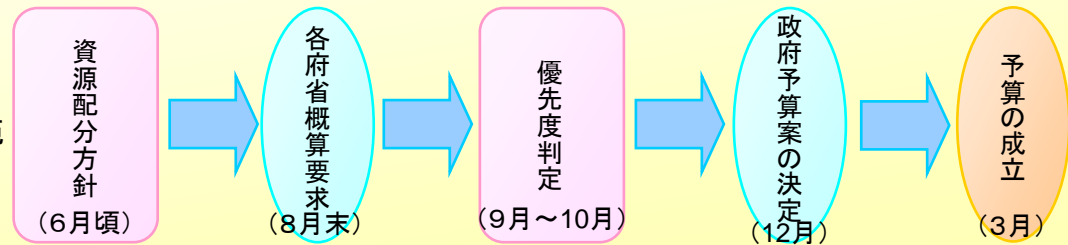
予算規模が大きく重要性の高い、科学研究費補助金や私学助成といった基盤的施策について、内容をより詳細にチェックし、改善事項・留意事項等について指摘している。

# 平成23年度の予算編成プロセス

## 従来の予算編成プロセス

- ・ 6月に方針を提示
- ・ 概算要求後に各省の施策に対して優先度判定を実施

概算要求検討の**前倒し・通年化が必要**



## 新たな予算編成プロセス

取り組むべき事項の大枠を早期に提示

各府省の要求施策をランク付け

① 当面の重要課題  
(3月)

新たな取組

② 資源配分方針  
基本指針 (4月)

③ アクション・プラン  
(7月)

④ 資源配分方針  
(7月)

各府省概算要求  
(8月末)

⑤ 優先度判定  
(9月～10月)

政府予算案の決定  
(12月)

予算の成立  
(3月)

我が国が**取り組むべき課題**を提示

重要施策を**政府全体が協力**して検討

**重点的に取り組むべき事項**を提示

### ◎新しい科学・技術予算編成プロセスの効果

- 政府全体が協力して早期に検討
- 議論の公開やパブリックコメントを実施
- 課題解決に特に重要な施策を各府省に提示
- 各府省連携の推進と予算要求の重複排除

予算編成プロセスの

通年化

透明化

重点化

効率化

を実現する  
**新たな取組**

# 科学・技術重要施策アクション・プラン

## 1. アクション・プランとは

- アクション・プランとは、新たな取組として、我が国を取り巻く課題の克服を目指し、2020年を見据えて策定したものであり、政府全体の科学・技術予算編成プロセスの改革です。
  - 平成23年度は、先行的に以下の課題を対象とします。
    - ・新成長戦略の重要課題であるグリーン及びライフの2大イノベーション
    - ・研究の生産性向上に速効性が期待できる競争的資金の使用ルール等の統一化
- 注:PDCAサイクル※徹底の観点から、来年度以降、毎年アクション・プランの見直しを行います。また、対象を拡大する予定  
※PDCAサイクル:計画(Plan)を実行(Do)して評価(Check)し、改善(Action)することにより、継続的に改善を繰り返すサイクル

## 2. なぜ、アクション・プランなのか？～従来の予算編成プロセスの問題点克服～

- 従来は概算要求後の調整が中心のため、概算要求時点での府省間の連携が不十分となり、
  - ・府省間で重複する施策が概算要求される
  - ・施策が各府省に分散し、規模が小さく、欠落もあり、結果として重点化が不十分という問題点があると、総合科学技術会議は考えています。

## 3. アクション・プランのねらいと効果

- 財源が国民の皆様の貴重な血税であることを再認識し、アクション・プランの策定により、以下の実現に取り組めます。
  - ① 総合科学技術会議が「司令塔」機能を発揮し、府省連携を促進します
  - ② 府省連携による科学・技術予算のムダの排除と質的充実で、科学・技術政策を重点的かつ効率的に展開することにより、迅速に重要課題を解決します
  - ③ 国民の皆様に成果を実感してもらえるよう、プロセスと結果の共有を図ります